



マルチサイトを介した Cisco Cloud Network Controller の管理

- [Cisco Cloud Network Controller とマルチサイトについて \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Cloud Network Controller サイトをマルチサイトに追加する \(2 ページ\)](#)
- [サイト間インフラストラクチャの設定 \(3 ページ\)](#)
- [Cisco Cloud Network Controller と ISN デバイス間の接続の有効化 \(4 ページ\)](#)
- [Cisco Cloud Network Controller GUI を使用したセキュリティ ドメインの作成 \(8 ページ\)](#)
- [テナントの設定 \(9 ページ\)](#)
- [スキーマの作成 \(11 ページ\)](#)
- [アプリケーションプロファイルと EPG の設定 \(12 ページ\)](#)
- [ブリッジドメインの作成と VRF への関連付け \(13 ページ\)](#)
- [コントラクトのフィルタの作成 \(13 ページ\)](#)
- [コントラクトの作成 \(14 ページ\)](#)
- [サイトをスキーマに追加する \(15 ページ\)](#)
- [エンドポイントセレクタの追加 \(16 ページ\)](#)
- [マルチサイト構成の確認 \(20 ページ\)](#)

Cisco Cloud Network Controller とマルチサイトについて

セットアップウィザードを使用して Cisco Cloud Network コントローラを設定するときに、[**サイト間接続 (Inter-Site Connectivity)**] オプションを [リージョン管理 (**Region Management**)] ページで選択した場合は、マルチサイトを使用して、オンプレミス サイトやクラウド サイトなどの別のサイトを Cisco Cloud APIC サイトとともに管理します。Cisco Cloud ネットワーク コントローラのセットアップウィザードで、[**クラウド ルータ (Cloud Routers)**] オプションだけを [リージョン管理 (**Region Management**)] ページで選択した場合、マルチサイトは必要ありません。

Cisco Cloud ネットワーク コントローラの管理専用に使われる、いくつかの新しいページが Cisco Nexus Dashboard Orchestrator に導入されています。この章のトピックでは、これらの新しい Cisco Cloud ネットワーク コントローラ管理ページについて説明します。これらの Cisco Cloud

ネットワーク コントローラ管理ページに必要な情報を入力すると、Cisco Cloud ネットワーク コントローラは、実質的に、マルチサイトを介して管理する別のサイトになります。

Cisco Cloud ネットワーク コントローラ サイトとともにオンプレミスサイトを管理している場合は、まだ設定していなければ、これらの手順を開始する前にオンプレミスサイトを設定しておくことを推奨します。これらの手順については、[Nexus Dashboard Orchestrator Installation and Upgrade Guide](#) を参照してください。

Cisco Cloud Network Controller サイトをマルチサイトに追加する

ステップ 1 まだログインしていない場合は、Cisco Nexus Dashboard Orchestrator にログインします。

ステップ 2 メイン メニューで **[サイト]** をクリックします。

ステップ 3 **[サイト リスト]** ページで、**[サイトの追加 (ADD SITE)]** をクリックします。

ステップ 4 **[接続設定]** ページで、次の操作を実行します。

- a) **[名前 (NAME)]** フィールドに、サイト名を入力します。

たとえば、cloudsite1 です。

- b) (任意) **[ラベル (LABELS)]** フィールドで、ラベルを選択するか作成します。

- c) **[APIC CONTROLLER URL]** フィールドに、Cisco Cloud Network Controller の URL を入力します。これは、Azure によって割り当てられたパブリック IP アドレスで、セットアップウィザードを使用して Cisco Cloud Network Controller を構成する手順の開始時に、Cisco Cloud Network Controller にログインするために使用したのと同じパブリック IP アドレスです。

たとえば、https://192.0.2.1 です。

- d) **[ユーザ名 (USERNAME)]** フィールドにユーザ名を入力します。

たとえば、admin とします。admin と同じ権限を持つ任意のアカウントに登録することもできます。

- e) **[パスワード (PASSWORD)]** フィールドに、パスワードを入力します。

- f) このフィールドが自動的に入力されていない場合は、**[APIC SITE ID]** フィールドに、一意のサイト ID を入力します。

サイト ID は、Cisco Cloud Network Controller サイトの一意の識別子である必要があります。範囲は 1 ~ 127 です。

- g) **[保存 (SAVE)]** をクリックします。

ステップ 5 Cisco Cloud Network Controller サイトが正しく追加されたことを確認します。

複数のサイトを管理している場合は、Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の [サイト (Sites)] 画面にすべてのサイトを表示する必要があります。Cisco Nexus Dashboard Orchestrator は、サイトがオンプレミスであるか、Cisco Cloud Network Controller サイトであるかを自動的に検出します。

次のタスク

「[サイト間インフラストラクチャの設定 \(3 ページ\)](#)」に進みます。

サイト間インフラストラクチャの設定

ステップ 1 [サイト (Sites)] ビューで、[インフラの構築 (CONFIGURE INFRA)] をクリックします。

[ファブリック接続インフラ (Fabric Connectivity Infra)] ページが表示されます。

ステップ 2 左側のペインの [サイト (SITES)] の下で、クラウドサイトをクリックします。

クラウドサイト領域のほとんどすべての情報は自動的に入力され、次のステップで説明する [BGP パスワード (BGP Password)] フィールドを除き、変更できません。

ステップ 3 オンプレミス サイトとクラウドサイト間でパスワードを設定するかどうかを決定します。

- オンプレミス サイトとクラウドサイトの間でパスワードを設定しない場合は、[ステップ 4 \(3 ページ\)](#) に進みます。
- オンプレミス サイトとクラウドサイト間でパスワードを設定するには、次のようにします。
 - a) 右側のペインで、[BGP パスワード (BGP password)] フィールドをクリックして、パスワードを入力します。
 - b) [CloudSite] ウィンドウの右上隅にある [更新 (Refresh)] アイコンをクリックします。

すべてのクラウドプロパティは、Cisco Cloud Network Controller から自動的に取得されます。サイトが正常に更新されたことを示すメッセージが表示され、すべてのクラウドプロパティが Cisco Cloud Network Controller から正常に取得されたことを確認します。

ステップ 4 クラウドサイトでマルチサイト接続を有効にするには、[マルチサイト (Multi-Site)] ボタンをクリックします。

ステップ 5 サイト間インフラストラクチャを設定するために使用する展開のタイプを選択します。

画面の右上にある [展開 (Deploy)] ボタンをクリックすると、次のスクロールダウンメニューオプションが表示されます。

- **[展開のみ (Deploy Only):]** マルチクラウド (クラウドサイトからクラウドサイト) への接続を設定する場合は、このオプションを選択します。

このオプションは、クラウドサイトと Cisco Cloud Network Controller サイトに設定をプッシュし、クラウドサイト間のエンドツーエンドインターコネクト接続を有効にします。

- **[展開 & IPN デバイス設定ファイルをダウンロード: (Deploy & Download IPN Device config files):]** オンプレミスの APIC サイトと Cisco Cloud Network Controller サイトの両方に設定をプッシュし、オンプレミスとクラウドサイト間のエンドツーエンドインターコネクト接続を有効にします。さらに、このオプションでは、Azure に導入された Cisco Cloud Router (CCR) とオンプレミスの IPsec 終端デバイスとの間の接続を有効にするための設定情報を含む zip ファイルをダウンロードします。すべてまたは一部の設定ファイルのどちらをダウンロードするかを選択できるようにするための、フォローアップ画面が表示されます。
- **[IPN デバイス設定ファイルのみをダウンロード (Download IPN Device config files only):]** Azure に展開された CCR とオンプレミスの IPsec 終端デバイス間の接続を有効にするために使用する、設定情報を含む zip ファイルをダウンロードします。すべてまたは一部の設定ファイルのどちらをダウンロードするかを選択できるようにするための、フォローアップ画面が表示されます。

Cisco Cloud Network Controller と ISN デバイス間の接続の有効化



- (注) このセクションの手順は、オンプレミスサイトとクラウドサイト間の接続を有効にしている場合にのみ実行してください。オンプレミスサイトがない場合は、これらの手順をスキップして、[Cisco Cloud Network Controller GUI を使用したセキュリティドメインの作成 \(8 ページ\)](#)に進みます。

Azure に展開された Cisco Cloud Router (CCR) とオンプレミスの IPsec 端末デバイス間の接続を手動で有効にするには、次の手順に従います。

デフォルトでは、Cisco Cloud Network Controller は冗長 CCR のペアを展開します。このセクションの手順では、2つのトンネルを作成します。1つはオンプレミスの IPsec デバイスからこれらの各 CCR に対する IPsec トンネルです。

次の情報は、オンプレミスの IPsec 端末デバイスとして CCR のコマンドを提供します。別のデバイスまたはプラットフォームを使用している場合は、同様のコマンドを使用します。

ステップ 1 Azure に展開された CCR とオンプレミスの IPsec 端末デバイスとの間の接続を有効にするために必要な情報を収集します。

- [サイト間インフラストラクチャの設定 \(3 ページ\)](#) で示されている手順の一部として Cisco Nexus Dashboard Orchestrator で、**IPN デバイス設定ファイルを展開してダウンロードするか、IPN デバイス設定ファイルのみをダウンロードする**ように選択した場合、ISN デバイスの設定ファイルが含まれている zip ファイルを見つけます。

- Azure に展開された CCR とオンプレミスの IPsec 端末デバイスとの間の接続を有効にするために必要な情報を手動で検索する場合は、*Cisco Cloud Network Controller* インストールガイドの付録で説明されているように、CSR とテナントの情報を収集します。

ステップ 2 オンプレミスの IPsec デバイスにログインします。

ステップ 3 最初の CCR のトンネルを構成します。

Cisco Nexus Dashboard Orchestrator を使用して、ISN デバイスの構成ファイルをダウンロードした場合は、最初の CCR の設定情報を見つけて、その構成情報を入力します。

最初の CCR の構成情報の例を次に示します。

```
crypto isakmp policy 1
  encryption aes
  authentication pre-share
  group 2
  lifetime 86400
  hash sha
exit

crypto keyring infra:overlay-1-<first-CCR-tunnel-ID>
  pre-shared-key address <first-CCR-elastic-IP-address> key <first-CCR-preshared-key>
exit

crypto isakmp profile infra:overlay-1-<first-CCR-tunnel-ID>
  local-address <interface>
  match identity address <first-CCR-elastic-IP-address>
  keyring infra:overlay-1-<first-CCR-tunnel-ID>
exit

crypto ipsec transform-set infra:overlay-1-<first-CCR-tunnel-ID> esp-aes esp-sha-hmac
  mode tunnel
exit

crypto ipsec profile infra:overlay-1-<first-CCR-tunnel-ID>
  set pfs group2
  set security-association lifetime seconds 86400
exit

interface tunnel <first-CCR-tunnel-ID>
  ip address <peer-tunnel-for-onprem-IPsec-to-first-CCR> 255.255.255.252
  ip virtual-reassembly
  tunnel source <interface>
  tunnel destination <first-CCR-elastic-IP-address>
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile infra:overlay-1-<first-CCR-tunnel-ID>
  ip mtu 1476
  ip tcp adjust-mss 1460
  ip ospf <process-id> area <area-id>
  no shut
exit
```

それぞれの説明は次のとおりです。

- <first-CCR-tunnel-ID> は、このトンネルに割り当ててる一意のトンネル ID です。

- <first-CCR-tunnel-ID> は、最初の CCR の 3 番目のネットワーク インターフェイスの柔軟な IP アドレスです。
- <first-CCR-preshared-key> は、最初の CCR の事前共有キーです。
- <interface> は、Azure に展開された CCR への接続に使用されるインターフェイスです。
- <peer-tunnel-for-onprem-IPsec-to-first-CCR> は、最初のクラウド CCR に対してオンプレミスの IPsec デバイスのピア トンネル IP アドレスとして使用されます。
- <process-id> は OSPF プロセス ID です。
- <area-id> は、OSPF エリア ID です。

次に例を示します。

```
crypto isakmp policy 1
  encryption aes
  authentication pre-share
  group 2
  lifetime 86400
  hash sha
exit

crypto keyring infra:overlay-1-1000
  pre-shared-key address 192.0.2.20 key 123456789009876543211234567890
exit

crypto isakmp profile infra:overlay-1-1000
  local-address GigabitEthernet1
  match identity address 192.0.2.20
  keyring infra:overlay-1-1000
exit

crypto ipsec transform-set infra:overlay-1-1000 esp-aes esp-sha-hmac
  mode tunnel
exit

crypto ipsec profile infra:overlay-1-1000
  set pfs group2
  set security-association lifetime seconds 86400
exit

interface tunnel 1000
  ip address 30.29.1.2 255.255.255.252
  ip virtual-reassembly
  tunnel source GigabitEthernet1
  tunnel destination 192.0.2.20
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile infra:overlay-1-1000
  ip mtu 1476
  ip tcp adjust-mss 1460
  ip ospf 1 area 1
  no shut
exit
```

ステップ 4 2 番目の CCR のトンネルを構成します。

Cisco Nexus Dashboard Orchestrator を使用して、ISN デバイスの設定ファイルをダウンロードした場合は、2 番目の CCR の設定情報を見つけて、その設定情報を入力します。

2 番目の CCR の構成情報の例を次に示します。

```
crypto isakmp policy 1
  encryption aes
  authentication pre-share
  group 2
  lifetime 86400
  hash sha
exit

crypto keyring infra:overlay-1-<second-CCR-tunnel-ID>
  pre-shared-key address <second-CCR-elastic-IP-address> key <second-CCR-preshared-key>
exit

crypto isakmp profile infra:overlay-1-<second-CCR-tunnel-ID>
  local-address <interface>
  match identity address <second-CCR-elastic-IP-address>
  keyring infra:overlay-1-<second-CCR-tunnel-ID>
exit

crypto ipsec transform-set infra:overlay-1-<second-CCR-tunnel-ID> esp-aes esp-sha-hmac
  mode tunnel
exit

crypto ipsec profile infra:overlay-1-<second-CCR-tunnel-ID>
  set pfs group2
  set security-association lifetime seconds 86400
exit

interface tunnel <second-CCR-tunnel-ID>
  ip address <peer-tunnel-for-onprem-IPsec-to-second-CCR> 255.255.255.252
  ip virtual-reassembly
  tunnel source <interface>
  tunnel destination <second-CCR-elastic-IP-address>
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile infra:overlay-1-<second-CCR-tunnel-ID>
  ip mtu 1476
  ip tcp adjust-mss 1460
  ip ospf <process-id> area <area-id>
  no shut
exit
```

例 :

```
crypto isakmp policy 1
  encryption aes
  authentication pre-share
  group 2
  lifetime 86400
  hash sha
exit

crypto keyring infra:overlay-1-1001
  pre-shared-key address 192.0.2.21 key 123456789009876543211234567891
exit
```

```

crypto isakmp profile infra:overlay-1-1001
  local-address GigabitEthernet1
  match identity address 192.0.2.21
  keyring infra:overlay-1-1001
exit

crypto ipsec transform-set infra:overlay-1-1001 esp-aes esp-sha-hmac
  mode tunnel
exit

crypto ipsec profile infra:overlay-1-1001
  set pfs group2
  set security-association lifetime seconds 86400
exit

interface tunnel 1001
  ip address 30.29.1.6 255.255.255.252
  ip virtual-reassembly
  tunnel source GigabitEthernet1
  tunnel destination 192.0.2.21
  tunnel mode ipsec ipv4
  tunnel protection ipsec profile infra:overlay-1-1001
  ip mtu 1476
  ip tcp adjust-mss 1460
  ip ospf 1 area 1
  no shut
exit

```

ステップ 5 構成する必要があるその他の CCR について、これらの手順を繰り返します。

ステップ 6 オンプレミスの IPsec デバイスでトンネルがアップしていることを確認します。

次に例を示します。

```

ISN_CCR# show ip interface brief | include Tunnel
Interface          IP-Address      OK? Method Status          Protocol
Tunnel1000         30.29.1.2       YES manual up              up
Tunnel1001         30.29.1.4       YES manual up              up

```

両方のトンネルがアップとして表示されていない場合は、この項の手順で入力した情報を確認して、問題が発生している可能性がある場所を確認します。両方のトンネルがアップとして表示されるまで、次のセクションに進まないでください。

Cisco Cloud Network Controller GUI を使用したセキュリティドメインの作成

セキュリティドメインは、追加するセキュリティドメインにテナントを制限します。セキュリティドメインを追加しない場合、すべてのセキュリティドメインがこのテナントにアクセスできます。この手順を使用して共有テナントを設定する場合は、これらのセキュリティドメインを選択できます。[テナントの設定 \(9 ページ\)](#)

このセクションでは、Cisco Cloud Network Controller GUI を使用したセキュリティ ドメインの作成方法について説明します。

-
- ステップ 1 Cisco Cloud Network Controller システムにログインします。
 - ステップ 2 インテント アイコンをクリックします。[**インテント (Intent)**] メニューが表示されます。
 - ステップ 3 [Intent]検索ボックスの下にあるドロップダウン矢印をクリックし、[Administrative]を選択します。
[Intent]メニューに管理オプションのリストが表示されます。
 - ステップ 4 [Intent]メニューの[Administrative]リストで、[Create Security Domain]をクリックします。[**セキュリティ ドメインの作成 (Create Security Domain)**] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - ステップ 5 [名前 (Name)] フィールドに、セキュリティ ドメインの名前を入力します。
 - ステップ 6 [説明 (Description)] フィールドに、セキュリティ ドメインの説明を入力します。
 - ステップ 7 設定が終わったら [Save] をクリックします。
-

テナントの設定

オンプレミスサイトと Cisco Cloud Network Controller サイト間で共有されるテナントを設定するには、この項の手順に従います。Azure サブスクリプションタイプとCisco Cloud Network Controller テナントの関係の詳細については、[テナント、ID、およびサブスクリプションについて](#)を参照してください。

-
- ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。
 - ステップ 2 左側のナビゲーションメニューで、[Tenants]をクリックします。
 - ステップ 3 メイン ペインで、[テナントの追加(Add Tenants)] をクリックします。
 - ステップ 4 [テナントの追加 (Add Tenant)] ウィンドウで、テナントの名前を入力します。
テナントの説明を入力することもできます。
 - ステップ 5 テナントをオンプレミスサイトに展開する必要がある場合は、[関連付けられたサイト (Associated Sites)] 領域の横にあるチェックボックスをオンにしてオンプレミスサイトを選択します。
(オプション) サイトのドロップダウンリストからセキュリティドメインを選択することもできます。
 - ステップ 6 Azureクラウドサイトをテナントに追加するには、[関連付けられたサイト (Associated Sites)] 領域の横にあるチェックボックスをオンにして、Azureクラウドサイトを選択します。
Azureクラウドサイトをテナントに関連付ける場合は、Azureサブスクリプション情報も提供する必要があります。
 - ステップ 7 Azureサイトを確認したら、ドロップダウンリストからセキュリティドメインを選択し (該当する場合)、その横にある[アカウントの関連付け (Associate Account)] をクリックします。
 - ステップ 8 Azureアカウントのモードを選択します。

- テナントを新しいAzureサブスクリプションに関連付ける場合は、[Mode : Create Own]を選択し、次のフィールドに情報を入力します。

1. [Azure Subscription ID]フィールドに、AzureサブスクリプションのIDを入力します。

Azureアカウントにログインし、ホームサブスクリプションに移動することで、サブスクリプションIDを取得できます。> Azureポータルにリストされているサブスクリプション名ではなく、サブスクリプションIDを使用する必要があります。

2. (オプション) このセキュリティアカウントを他のセキュリティドメインと共有する場合は、[セキュリティドメイン (Security Domain)]フィールドでクラウドアカウントの下のセキュリティドメインを選択します。

詳細については、「[Cisco Cloud Network Controller GUI を使用したセキュリティドメインの作成 \(8 ページ\)](#)」を参照してください。

3. [アクセス タイプ (Access Type)]フィールドで、Cisco Cloud Network Controller VMとテナント間のアクセスタイプを選択します。

(注) 管理対象アイデンティティと、非管理対象アイデンティティ/サービスプリンシパルの両方が、インフラテナントとユーザー テナントのアクセスタイプとしてサポートされます。

- 特定のアプリケーションを介してクラウドリソースを管理するには、[Unmanaged Identity]を選択します。

これは、異なるサブスクリプションでテナントを設定する場合に使用できます。サブスクリプションが同じ組織内の異なるAzureディレクトリ (Azureテナント) にあるか、サブスクリプションが異なる組織にある可能性があります。

この場合、アプリケーションのクレデンシャルも Cisco Cloud Network Controller に提供する必要があります。の手順の最後に保存した情報を参照してください。 [Azureでのアプリケーションの作成](#)

- **アプリケーションID** : AzureアプリケーションのアプリケーションIDを入力します。このIDは、ホームアプリケーション登録にリストされます。 <application-name> [アプリケーション (クライアント) ID (Application (client) ID)] フィールドに入力します。 > >
- **[Client Secret]** : アプリケーションシークレットを入力します。ホームアプリケーションの登録でシークレットを作成できます。 <application-name> Certificates & secrets新しいクライアントシークレット。 > > >
- **Azure Active Directory ID** : AzureアプリケーションのアプリケーションディレクトリIDを入力します。このIDは、ホームアプリケーション登録にリストされます。 <application-name>、 [Directory (tenant) ID] フィールドに入力します。 > >

(注) この場合、アプリケーションのロール割り当ても追加する必要があります。これらの手順については、 [アプリへのロール割り当ての追加](#) を参照してください。

- [管理対象アイデンティティ (Managed Identity)] を選択して、Cisco Cloud Network Controller VM がクラウドリソースを管理できるようにします。

これは、Azure サブスクリプションが (同じ組織の) 同じディレクトリにある場合に使用できます。

(注) この場合、VM のロール割り当ても追加する必要があります。これらの手順については、[仮想マシンへのロール割り当ての追加](#) を参照してください。

- [モードの選択 (Choose Mode)] : 既存のテナントと共有されている既存のサブスクリプションを使用する場合は、[共有 (Shared)] を選択します。

Azure では、同じサブスクリプションを使用して複数のテナントを作成できます。

[共有の選択 (Select Shared)] を選択した場合は、ドロップダウンリストからクラウドアカウントを選択できます。ドロップダウンリストで使用可能なクラウドアカウントは、選択したセキュリティドメインに基づいています。[テナントの設定 \(9 ページ\)](#) 新しいテナントは、選択したアカウントと同じ Azure サブスクリプションに関連付けられます。

(注) セキュリティドメインを設定した場合は、選択したクラウドアカウントが、テナント用に選択したものと同一セキュリティドメインと共有されている必要があります。同じ Azure サブスクリプションを共有するすべてのテナントは、同じセキュリティドメインに存在する必要があります。

ステップ 9 必要に応じて、[Associated Users] 領域で、テナントにアクセスできるユーザを選択します。

ステップ 10 (オプション) 整合性チェックを有効にします。

このテナントのスケジュール済み整合性チェックを有効にすることもできます。整合性チェックの詳細については、『[設定ガイド](#)』を参照してください。マルチサイト

ステップ 11 [保存 (Save)] をクリックしてテナントを追加します。

次のタスク

[スキーマの作成 \(11 ページ\)](#) に移動してスキーマを作成します。

スキーマの作成

Cisco Cloud Network Controller に固有ではない一般的な Multi-Site 手順がいくつかありますが、Multi-Site を介してオンプレミスサイトと Cisco Cloud Network Controller サイトを管理している場合は Cisco Cloud Network Controller の全体的なセットアップの一部として実行する必要があります。ここでは、Cisco Cloud Network Controller の全体的なセットアップの一部である Multi-Site の一般的な手順について説明します。

Cisco Cloud Network Controller サイトの新しいスキーマを作成する場合は、この項の手順に従ってください。

Cisco Cloud Network Controller サイトに使用するスキーマがすでにある場合は、これらの手順をスキップして、[サイトをスキーマに追加する \(15 ページ\)](#) に移動することができます。

-
- ステップ 1 メイン メニューで **[スキーマ]** をクリックします。
 - ステップ 2 **[スキーマ]** ページで、**[スキーマの追加]** をクリックします。
 - ステップ 3 **[無題スキーマ]** ページで、ページの上部にあるテキスト **無題スキーマ** を、作成するスキーマの名前 (たとえば、**Cloudbursting スキーマ** に置き換えます)。
 - ステップ 4 左側のペインで **[ロール (Roles)]** をクリックします。
 - ステップ 5 中央のペインで、スキーマを作成するエリアをクリックしてテナントを選択してくださいをクリックしてください。
 - ステップ 6 **[テナントの選択]** ダイアログ ボックスにアクセスし、ドロップダウン メニューから [テナントの設定 \(9 ページ\)](#) で作成したテナントを選択します。
-

アプリケーション プロファイルと EPG の設定

この手順では、アプリケーション プロファイルを設定し、2 つの EPG を追加する方法について説明します。1 つはクラウドサイト用、もう 1 つは、プロバイダ コントラクトが 1 つの EPG に関連付けられており、コンシューマ コントラクトが他の EPG に関連付けられている場合です。

-
- ステップ 1 中央のペインで、**[アプリケーション プロファイル (Application Profile)]** エリアを見つけて、**[+ アプリケーション プロファイル (+ Application profile)]** をクリックします。
 - ステップ 2 右側のペインで、**[表示名 (DISPLAY NAME)]** フィールドにアプリケーション プロファイルの名前を入力します。
 - ステップ 3 中央のペインで、**[+ EPG の追加 (+ ADD EPG)]** をクリックして、クラウドサイトの EPG を作成します。
 - ステップ 4 右側のペインで、**[表示名 (DISPLAY NAME)]** フィールドに EPG の名前を入力します (たとえば **epg1**)。
 - ステップ 5 オンプレミスサイトの EPG を作成する場合には、中央のペインで、**[+ EPG の追加 (+ ADD EPG)]** をクリックします。
 - ステップ 6 右側のペインで、**[表示名 (DISPLAY NAME)]** フィールドに EPG の名前を入力します (たとえば **epg2**)。
 - ステップ 7 VRF を作成します。
 - a) 中央のペインで、**[VRF]** エリアが表示されるまで下方にスクロールし、点線で囲まれたボックスの **+** をクリックします。
 - b) 右側のペインで、**[表示名 (DISPLAY NAME)]** フィールドに EPG の名前を入力します (たとえば **vrf1**)。
 - ステップ 8 **[保存 (SAVE)]** をクリックします。
-

ブリッジドメインの作成と VRF への関連付け

この項の手順に従って、オンプレミスサイトのブリッジドメインを作成し、それを VRF に関連付けます。これらの手順は、クラウドのみのスキーマには必要ではないことに注意してください。

- ステップ 1 中央のペインで、[EPG] まで上にスクロールして戻り、以前にオンプレミスサイト用に作成した EPG をクリックします。
- ステップ 2 右側のペインの[オンプレミス プロパティ (ON-PREM PROPERTIES)] エリアの[ブリッジドメイン (BRIDGE DOMAIN)] の下で、フィールドに名前を入力し (たとえば、bd1)、[作成 (create)] エリアをクリックして新しいブリッジドメインを作成します。
- ステップ 3 中央のペインで、今作成したブリッジドメインをクリックします。
- ステップ 4 [仮想ルーティング/フォワーディング (Virtual Routing & Forwarding)] フィールドで、[アプリケーションプロファイルと EPG の設定 \(12 ページ\)](#) で作成した VRF を選択します。
- ステップ 5 [サブネット (SUBNETS)] エリアまで下にスクロールし、[GATEWAY (ゲートウェイ)] 見出しの下の [サブネット (SUBNET)] の横にある + をクリックします。
- ステップ 6 [サブネットの追加 (Add Subnet)] ダイアログで、[ゲートウェイ IP (Gateway IP)] アドレスと、追加する予定のサブネットの説明を入力します。このゲートウェイ IP アドレスは、オンプレミスのサブネットのものです。
- ステップ 7 [範囲 (Scope)] フィールドで、[外部にアドバタイズ (Advertised Externally)] を選択します。
- ステップ 8 [保存 (SAVE)] をクリックします。

コントラクトのフィルタの作成

- ステップ 1 中央のペインで、[コントラクト (Contract)] エリアが表示されるまで下方にスクロールし、点線で囲まれたボックスの + をクリックします。
- ステップ 2 右側のペインで、[表示名 (DISPLAY NAME)] フィールドにフィルタの名前を入力します。
- ステップ 3 [+ 入力 (+ Entry)] をクリックして、[エントリの追加 (Add Entry)] ディスプレイ上のスキーマフィルタについての情報を入力します。
 - a) **Name** フィールド (Add Entry ダイアログ) のスキーマフィルタ エントリの名前を入力します。
 - b) オプション。 **Description** フィールドにフィルタの説明を入力します。
 - c) EPG の通信のフィルタ処理を行うために、必要に応じて詳細を入力します。

たとえば、フィルタを通過する HTTPS トラフィックを許可するエントリを追加するには、次のように選択します。

TYPE: IP、IP PROTOCOL: TCP、および DESTINATION PORT RANGE FROM および DESTINATION PORT range TO: https。

- d) **[保存 (SAVE)]** をクリックします。

コントラクトの作成

- ステップ 1** 中央のペインで、**[コントラクト (Contract)]** エリアが表示されるまで下方にスクロールし、点線で囲まれたボックスの **+** をクリックします。
- ステップ 2** 右側のペインで、**[表示名 (DISPLAY name)]** フィールドにコントラクトの名前を入力します。
- ステップ 3** **[範囲 (SCOPE)]** エリアで、VRF の選択をそのままにします。
- ステップ 4** **[フィルタ チェーン (FILTER CHAIN)]** エリアで、**[+ フィルタ (+ FILTER)]** をクリックします。
[フィルタ チェーンの追加 (Add Filter Chain)] 画面が表示されます。
- ステップ 5** **[名前 (NAME)]** フィールドで、**コントラクトのフィルタの作成 (13 ページ)** で作成したフィルタを選択します。
- ステップ 6** 中央のペインで、**[EPG]** までスクロールして戻り、クラウドサイト用に作成した EPG をクリックします。
- ステップ 7** 右側のペインで、**[+コントラクト (+ CONTRACT)]** をクリックします。
[コントラクトの追加] 画面が表示されます。
- ステップ 8** **[コントラクト (contract)]** フィールドで、この手順で以前に作成したコントラクトを選択します。
- ステップ 9** **[タイプ (TYPE)]** フィールドで、**コンシューマ** または **プロバイダ** のいずれかを選択します。
- ステップ 10** **[クラウドのプロパティ (CLOUD PROPERTIES)]** エリアまでスクロールし、**[仮想ルーティングと転送 (VIRTUAL ROUTING & FORWARDING)]** エリアで、**アプリケーションプロファイルと EPG の設定 (12 ページ)** で作成した VRF を選択します。
- ステップ 11** **[保存 (SAVE)]** をクリックします。
- ステップ 12** 中央のペインで、**[EPG]** までスクロールして戻り、オンプレミスサイト用に作成した EPG をクリックします。
- ステップ 13** 右側のペインで、**[+コントラクト (+ CONTRACT)]** をクリックします。
[コントラクトの追加] 画面が表示されます。
- ステップ 14** **[コントラクト (contract)]** フィールドで、この手順で以前に作成したコントラクトを選択します。
- ステップ 15** **[タイプ (TYPE)]** フィールドで、**[コンシューマ (CONSUMER)]** または **[プロバイダ (PROVIDER)]** を選択します。これは、前の EPG に選択しなかったものです
たとえば、最初の EPG に **[プロバイダ (PROVIDER)]** を選択した場合は、2番目の EPG の **[コンシューマ (CONSUMER)]** を選択します。

ステップ 16 [クラウドのプロパティ (CLOUD PROPERTIES)] エリアまでスクロールし、[仮想ルーティングと転送 (VIRTUAL ROUTING & FORWARDING)] エリアで、[アプリケーションプロファイルと EPG の設定 \(12 ページ\)](#) で作成したものと同一 VRF を選択します。

サイトをスキーマに追加する

ステップ 1 左側のペインで、[サイト (Sites)] の横にある + をクリックします。

ステップ 2 [サイトの追加 (Add Sites)] ページで、それぞれの横にあるボックスをオンにして、オンプレミスおよびクラウドサイトをスキーマに追加し、[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 3 左側のペインのクラウドサイトの下にあるテンプレートをクリックして、テンプレートのサイトローカルプロパティを設定します。

ステップ 4 中央のペインで、VRF をクリックします。

ステップ 5 右側のペインの [サイトローカルプロパティ (SITE LOCAL PROPERTIES)] 領域で、次の情報を入力します。

- a) [リージョン (region)] フィールドで、この VRF を導入する Azure リージョンを選択します。
- b) CIDR フィールドで、+CIDR をクリックします。

[クラウド CIDR の追加 (ADD CLOUD CIDR)] ダイアログボックスが表示されます。次の情報を入力します。

- **CIDR:** VNET CIDR 情報を入力します。たとえば、11.11.0.0/16 とします。

CIDR には、Azure VNET で使用可能になるすべてのサブネットの範囲が含まれています。

(注) このフィールドに入力した VPC CIDR 情報は、インフラプールと重複させることはできません。このフィールドに入力した CIDR 情報が、[Azure での Cisco Cloud Network Controller の展開](#) の [インフラサブネット (Infra Subnet)] フィールドに入力したインフラプール情報と重複していないことを確認します。

- **[CIDR タイプ (CIDR TYPE)]:** [プライマリ (Primary)] または [セカンダリ (Secondary)] を選択します。これが最初の CIDR の場合は、CIDR タイプとして [プライマリ (Primary)] を選択します。
- **[サブネット追加 (ADD SUBNETS)]:** サブネット情報を入力し、チェックマークをクリックします。たとえば、11.11.1.0/24 とします。

Cisco Cloud Network Controller の場合、サブネットはサブネットマスク付きの有効なサブネットであり、サブネットマスク付きの IP アドレスではありません。たとえば、11.11.0.0/24 は有効なサブネットおよびサブネットマスクです。11.11.0.1 は IP アドレスおよびサブネットマスクですが、Cisco Cloud Network Controller で使用する有効なサブネットではありません。

(注) VGW 専用のサブネットを 1 つ追加する必要があります。この特定のサブネットに対して [Used by VGW] を選択します。

- c) ウィンドウで **[保存 (Save)]** をクリックします。

エンドポイントセレクタの追加

Cisco Cloud Network Controller では、クラウド EPG は同じセキュリティポリシーを共有するエンドポイントの集合です。クラウド EPG は、1つまたは複数のサブネット内にエンドポイントを持つことができ、VRF に関連付けられます。

Cisco Cloud Network Controller には、エンドポイントをクラウド EPG に割り当てるために使用される、エンドポイントセレクタと呼ばれる機能があります。エンドポイントセレクタは、基本的に言って、Cisco ACI によって管理される Azure VNET に割り当てられたクラウドインスタンスに対して実行される一連のルールです。エンドポイントインスタンスに一致するエンドポイントセレクタルールは、そのエンドポイントをクラウド EPG に割り当てます。エンドポイントセレクタは、Cisco ACI で使用可能な属性ベースのマイクロセグメンテーションに似ています。

エンドポイントセレクタは、Cisco Cloud Network Controller GUI または Cisco Nexus Dashboard Orchestrator GUI のいずれかを使用して構成できます。2つの GUI 間で使用可能なオプションにはわずかな違いがありますが、エンドポイントセレクタを追加するための一般的な概念と全体的な手順は、基本的にこの2つの間で同じです。

このセクションの手順では、Cisco Nexus Dashboard Orchestrator GUI を使用してエンドポイントセレクタを設定する方法について説明します。Cisco Cloud Network Controller GUI を使用したエンドポイントセレクタのセットアップの詳細については、*Cisco Cloud Network Controller ユーザーガイド* を参照してください。

ステップ 1 Cisco Cloud Network Controller のエンドポイントセレクタに使用できる Azure サイトから、必要な情報を収集します。

- (注) これらの手順は、最初に Azure でインスタンスを設定してから、その後に Cisco Cloud Network Controller のエンドポイントセレクタを追加することを前提としています。ただし、最初に Cisco Cloud Network Controller のエンドポイントセレクタを追加してから、この Azure インスタンスの設定手順を、これらのエンドポイントセレクタの手順の最後で実行することもできます。

ステップ 2 ログインしていない場合は、Cisco Nexus Dashboard Orchestrator にログインします。

ステップ 3 左側のペインで、**[スキーマ (schema)]** をクリックし、以前に作成したスキーマを選択します。

ステップ 4 エンドポイントセレクタを作成する方法を決定します。

- 今後追加される、任意のクラウドサイトに適用できるエンドポイントセレクタを作成するには、次の手順を実行します。

1. 左側のペインで、テンプレートを選択したままにします。

これらの手順で特定のサイトを選択しないでください。

2. 中央のペインで、クラウドサイト用に作成した EPG を選択します。
 3. 右側のペインの **[クラウドのプロパティ (CLOUD PROPERITES)]** 領域で、**+[セレクタ (SELECTORS)]** の横にあるものをクリックして、エンドポイント セレクタを設定します。
 4. **[新しいエンドポイント セレクタの追加 (Add New End Point selector)]** ダイアログで、**[エンドポイント セレクタ名 (END POINT SELECTOR NAME)]** フィールドに、このエンドポイント セレクタで使用する分類に基づいて名前を入力します。
 5. **[+ 式 (Expression)]** をクリックし、エンドポイント セレクタのタイプを選択します。
このように作成されたエンドポイント セレクタの場合、**[キー (Key)]** フィールドで使用できるオプションは **[EPG]** のみです。
 6. [ステップ 5 \(18 ページ\)](#) に進みます。
- このクラウドサイト専用のエンドポイント セレクタを作成するには、次の手順を実行します。
 1. 左ペインで、クラウドサイトを選択します。
 2. 中央のペインで、クラウドサイト用に作成した EPG を選択します。
 3. 右側のペインの **[サイトのローカルのプロパティ (SITE LOCAL PROPERITES)]** 領域の **[セレクタ (SELECTOR)]** 領域で、**+[セレクタ (SELECTOR)]** の横にあるものをクリックして、エンドポイント セレクタを設定します。
 4. **[新しいエンドポイント セレクタの追加 (Add New End Point selector)]** ダイアログで、**[エンドポイント セレクタ名 (END POINT SELECTOR NAME)]** フィールドに、このエンドポイント セレクタで使用する分類に基づいて名前を入力します。
たとえば、IPサブネット分類のエンドポイントセレクタの場合は、**[IP-Subnet-EPSelector]** などの名前を使用できます。
 5. **[+ 式 (Expression)]** をクリックし、エンドポイント セレクタで使用するキーを選択します。
 - **[IP アドレス (IP Address)]**: IP アドレスまたはサブネットによって選択するために使用されます。エンドポイントセレクタとしてのIPアドレスの値は、CIDRで作成されたユーザサブネットに属します。[サイトをスキーマに追加する \(15 ページ\)](#)
さらに、特にAzureスケールセットVMの場合、エンドポイントセレクタとしてのIPアドレスの値は、そのスケールセットが存在する場所で設定された完全なサブネットである必要があります。[サイトをスキーマに追加する \(15 ページ\)](#) サブネット内のIPアドレスは使用できません。
たとえば、AzureスケールセットVMのこれらのフィールドで次の値を使用した場合。
 - CIDR : 10.1.0.0/16
 - Subnet : 10.1.0.0/24エンドポイントセレクタとしてのIPアドレスの有効な値は10.1.0.0/24です。10.1.0.1/32または10.1.0.0/16のエントリは、AzureスケールセットVMのエンドポイントとしてのIPアドレスの有効な値ではありません。

(注) IPv6 は Azure の Cisco Cloud Network Controller ではサポートされていません。このフィールドには有効な IPv4 アドレスを使用する必要があります。

- **[リージョン (Region)]**: エンドポイントの Azure リージョンで選択するために使用されます。
- エンドポイントセレクトアのカスタムタグを作成する場合は、**[検索または作成のために入力 (Type to search or create)]** フィールドで入力を開始してカスタム タグまたはラベルを入力し、新しいフィールドで **[作成 (Create)]** をクリックして、新しいカスタム タグまたはラベルを作成します。

Azure にタグを追加するときに、これらの手順の前の例を使用すると、以前に Azure で追加したロケーションタグと一致するように、このフィールドにカスタム タグのロケーションを作成できます。

ステップ 5 **[演算子 (Operator)]** フィールドで、エンドポイントセレクトアに使用する演算子を選択します。

次のオプションがあります。

- **[等しい (Equals)]**: [値 (value)] フィールドに 1 つの値がある場合に使用します。
- **[等しくない (Not Equals)]**: 値フィールドに 1 つの値がある場合に使用されます。
- **[の中にある (In)]**: [値 (Value)] フィールドに複数のカンマ区切り値がある場合に使用します。
- **[の中にない (Not In)]**: 値フィールドに複数のカンマ区切り値がある場合に使用されます。
- **[キーを持つ (Has Key)]**: 式にキーのみが含まれている場合に使用されます。
- **[キーを持たない (Does Not Have Key)]**: 式にキーのみが含まれている場合に使用されます。

ステップ 6 **[値 (value)]** フィールドで、2 つ前のフィールドに対して行った選択に基づいて、エンドポイントセレクトアに使用する値を選択します。**[値 (Value)]** フィールドには、複数のカンマ区切りのエントリを含めることができます。このフィールドのエントリの間には論理 OR があるものとみなされます。

(注) **[キーを持つ (Has Key)]** または **[キーの不在 (Key Not Exist)]** を選択していない場合には、**[演算子 (Operator)]** フィールドは表示されません。

たとえば、エンドポイントセレクトアに、westus など特定の Azure リージョンがある場合には、この画面で次の項目を選択します。

- **[キー (Key):]** Region
- **[演算子 (Operator):]** Equals
- 値 : westus

別の例として、これらのフィールドで次の値を使用したとします。

- **[キー (Key):]** IP
- **[演算子 (Operator):]** Has Key

- [値 (Valuse):]は、演算子 (Operator)] フィールドで [Has Key] が使用されているため、使用できません。

EPG ルールは、この状況で IP アドレスを持つすべてのエンドポイントに適用されます。

最後の例として、これらのフィールドで次の値を使用したとします。

- [キー (Key):] custom tag: Location
- [演算子 (Operator):] Has Key
- [値 (Valuse):]は、演算子 (Operator)] フィールドで [Has Key] が使用されているため、使用できません。

この場合、EPG ルールは、Azure タグキーとして Location を持つすべてのエンドポイントに、ロケーションの値に関係なく適用されます。

ステップ 7 このエンドポイントセレクタ式の作成が完了したら、チェックマークをクリックします。

ステップ 8 追加のエンドポイントセレクタ式を作成するかどうかを決定します。

単一のエンドポイントセレクタで複数の式を作成した場合、それらの式の間には論理 AND があるものとみなされます。たとえば、1つのエンドポイントセレクタで2つの式セットを作成したとします。

- エンドポイントセレクタ 1、式 1:
 - [キー (Key):] Region
 - [演算子 (Operator):] Equals
 - 値 : eastus
- エンドポイントセレクタ1、式 2:
 - [キー (Key):] IP
 - [演算子 (Operator):] Equals
 - [値 (Value):] 192.0.2.1/24

この場合、これらの式の両方が真になる場合 (regionが eastus で、IP アドレスがサブネット 192.0.2.1/24 に属している場合) に、そのエンドポイントはクラウド EPG に割り当てられます。

このエンドポイントセレクタで作成するすべての式を追加した後で、チェックマークをクリックします。

ステップ 9 このエンドポイントセレクタの式の作成が完了したら、[保存 (SAVE)] をクリックします。これは [新しいエンドポイントセレクタの追加 (Add New End Point selector)] の右下隅にあります。

EPG の下で複数のエンドポイントセレクタを作成した場合は、それらのエンドポイントセレクタの間には論理 OR があるものとみなされます。たとえば、前のステップで説明したようにエンドポイントセレクタ 1 を作成し、次に、次に示すように 2 番目のエンドポイントセレクタを作成したとします。

- エンドポイントセレクタ 2、式 1:
 - [キー (Key):] Region

- **[演算子 (Operator):]** In

- 値 : centralus、eastus2

その場合、次のようになります。

- リージョンが eastus で、IP アドレスが 192.0.2.1/24 サブネットに属している (エンドポイントセクタ 1 の式)

または

- リージョンが centralus または eastus2 (エンドポイントセクタ 2 の式) のいずれかである

その場合、エンドポイントがクラウド EPG に割り当てられます。

ステップ 10 エンドポイントセクタの作成が完了したら、右上隅の **[保存 (SAVE)]** をクリックします。

ステップ 11 画面の右上隅にある **[サイトに展開 (DEPLOY TO SITES)]** ボタンをクリックして、スキーマをサイトに展開します。

[正常に展開 (Successfully Deployed)] されたというメッセージが表示されます。

次のタスク

[マルチサイト構成の確認 \(20 ページ\)](#) の手順を使用して、マルチサイトエリアが正しく設定されていることを確認します。

マルチサイト構成の確認

このトピックの手順を使用して、Cisco Nexus Dashboard Orchestrator に入力した設定が正しく適用されていることを確認します。

ステップ 1 Cisco Cloud Network Controller にログインし、次のことを確認します。

- [ダッシュボード (Dashboard)] をクリックしサイト間接続ステータスおよびリージョン間接続ステータスボックスの情報を使用して、次のことを確認します。
 - トンネルは、Azure 上の Cisco Cloud Services Router 1000V から、オンプレミスの ISN (IPsec 終端ポイント)、およびユーザー VNet の VGW に対して動作しています。
 - OSPF ネイバーが CCR と ISN オンプレミス デバイスの間で起動していることを示します。
 - VRF の BGP EVPN ルートにはクラウドとオンプレミスのルートが表示され、クラウドルートは ACI スパインスイッチの BGP EVPN を介して入力されます。
- [アプリケーション管理 (Application Management)] → [テナント] をクリックし、テナントが正しく設定されていることを確認します。

- c) [アプリケーション管理 (Application Management)] → [アプリケーションプロファイル] をクリックし、アプリケーションプロファイルが正しく設定されていることを確認します。
- d) [アプリケーション管理 (Application Management)] → [EPG] をクリックし、EPG が正しく設定されていることを確認します。
- e) [アプリケーション管理 (Application Management)] → [コントラクト] をクリックし、契約が正しく設定されていることを確認します。
- f) [アプリケーション管理 (Application Management)] → [VRF] をクリックし、VRF が正しく設定されていることを確認します。
- g) [アプリケーション管理 (Application Management)] → [クラウド コンテキスト Cloudプロファイル] をクリックし、クラウド コンテキストプロファイルが正しく設定されていることを確認します。
- h) [クラウドリソース (Cloud Resources)] → [リージョン] をクリックし、リージョンが正しく設定されていることを確認します。
- i) [クラウドリソース (Cloud Resources)] → [VNETs] をクリックし、VNETs が正しく設定されていることを確認します。
- j) [クラウドリソース (Cloud Resources)] → [クラウドエンドポイント] をクリックし、クラウドエンドポイントが正しく設定されていることを確認します。
- k) [クラウドリソース (Cloud Resources)] → [ルータ] をクリックし、CCR が正しく設定されていることを確認します。

ステップ 2 オンプレミスの APIC サイトにログインし、APIC のスキーマを確認します。

Cisco Nexus Dashboard Orchestrator で設定した共有テナントが APIC のテナントエリアに表示され、Cisco Nexus Dashboard Orchestrator スキーマから展開された VRF と EPG がオンプレミス APIC で設定されていることが確認できます。

ステップ 3 コマンドラインから、Azure の CCR で VRF が正しく作成されていることを確認します。

```
show vrf
```

テナント t1 と VRF v1 が Cisco Nexus Dashboard Orchestrator から展開されている場合、CCR の出力は次のようになります。

Name	Default RD	Protocols	Interfaces
t1:v1	64514:3080192	ipv4	BD1 Tu4 Tu5

ステップ 4 コマンドラインから、Azure の CCR と ISN オンプレミス デバイスの間でトンネルがアップしていることを確認します。

Azure の CCR または ISN オンプレミスのデバイスで、次のコマンドを実行できます。

```
show ip interface brief | inc Tunnel
```

以下のような出力が表示されます。

Interface	IP-Address	OK?	Method	Status	Protocol
Tunnel1	1.2.3.22	YES	manual	up	up
Tunnel2	1.2.3.30	YES	manual	up	up
Tunnel3	1.2.3.6	YES	manual	up	up
Tunnel4	1.2.3.14	YES	manual	up	up

ステップ5 コマンドラインから、Azure の CCR と ISN オンプレミス デバイスの間で OSPF ネイバーがアップしていることを確認します。

```
show ip ospf neighbor
```

以下のような出力が表示されます。

Neighbor ID	Pri	State	Dead Time	Address	Interface
10.200.10.201	0	FULL/ -	00:00:36	1.2.3.13	Tunnel4
20.30.40.50	0	FULL/ -	00:00:36	1.2.3.29	Tunnel2
10.202.101.202	0	FULL/ -	00:00:38	1.2.3.5	Tunnel3

ステップ6 コマンドラインから、オンプレミスの BGP EVPN ネイバーが CCR に存在することを確認します。

```
show bgp l2vpn evpn summary
```

以下のような出力が表示されます。

Neighbor	V	AS	MsgRcvd	MsgSent	TblVer	InQ	OutQ	Up/Down	State/PfxRcd
10.1.1.2	4	100	139	137	99	0	0	01:30:36	6

ステップ7 コマンドラインから、VRF の BGP ルートにクラウドとオンプレミスの両方のルートが表示されていることを確認します。

(注) 現在の Cisco Cloud Network Controller のワークフローにおいて、VRF は、対応する VPC が Azure で作成されるまで、CCR で構成されません。

```
show ip route vrf t1:v1
```

以下のような出力が表示されます。

```
B 129.1.1.5/32[20/0] via 10.11.0.34, 01:12:41, BD11
B 130.1.0.0/16[20/100] via 131.254.4.5, 01:09:55
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。